

新型コロナウイルス感染症に関する検査体制整備計画

概要

東京iCDCでの議論を踏まえ、ピーク前の12月上旬までに体制を整備

- 例年1～2月頃のインフルエンザ流行等を見据え、新たな検査需要を設定
- 必要な検査を迅速に実施できるよう、関係機関と連携し、検査体制を拡充

1 検査需要

ピーク時の検査需要を1日当たり約6.5万件と想定

2 検査（分析）体制

【現状】通常時 約2.5万件/日 ⇒ 最大稼働時 約4.6万件/日 <約1.9万件/日不足>

▶ 抗原定性検査(抗原簡易キット)の活用を促進することで、最大稼働時約6.5万件/日の検査処理を可能とする。

※ 検体採取体制

現在、約2.1万～約6.3万件/日を確保（診療時間や体制の拡充により変動）。

今後、検査を実施する医療機関を拡充し、約6.5万件/日を確保する。

1 検査需要について

都のピーク時の検査需要は、以下(1)及び(2)を合算し、約6.5万/日と設定

(1) 新型コロナウイルス感染症固有の検査需要 = 約1.3万件/日

① 疑い患者・濃厚接触者 10,971	② 行政検査 拡大・変動 1,097	③ その他 1,000
------------------------	--------------------------	----------------

〔①はR2.6.2.国事務連絡により、疑い患者=最大新規陽性者数477人/日÷陽性率5%=9,540件/日、濃厚接触者=最大新規陽性者数477人/日×濃厚接触者数3.0人=1,431件/日と算出。②はR2.9.15.国事務連絡により、①の1割分を算出。③は都独自に上乗せ〕

(2) インフルエンザの流行に伴う発熱患者等の検査需要 = 約5.2万件/日

● 国の計算式によるピーク時の検査需要 = 65,768件/日

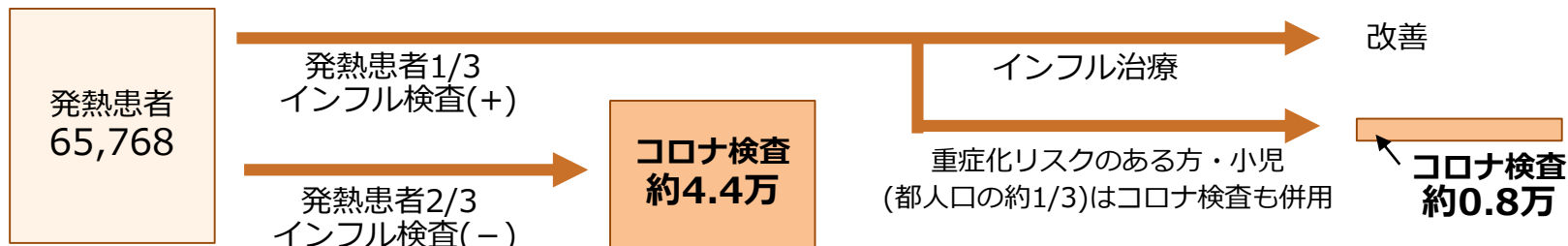
$$\frac{A(\text{年度当たりインフル検査数}) \times 1 \text{割}}{B(\text{1週当たり診療日数} 5 \sim 6 \text{日})}$$

(ピーク時1週間の検査数に相当)

= H29年度インフル検査数 3,288,395件 × 1割 ÷ 5日 = 65,768件

国提供データ(H26-29年度)のうち、患者数が最大であるH29年度の検査数を用いて算出

● 医療機関対応フローを考慮した検査需要 = 約5.2万件/日



2 検査（分析）体制について

① 都の現状

- 通常時 約2.5万件/日
- 最大稼働時（稼働時間や体制の拡充） 約4.6万件/日

【都におけるPCR検査・抗原定量検査の状況】

（単位：件/日）

検査実施機関	都健安研・保健所	民間検査機関	医療機関	合計
通常時	約800	約2.0万	約4,600	約2.5万
最大稼働時※1	約1,200	約3.4万	約11,100	約4.6万

※1 最大稼働時は、検査機器・試薬等を確保し、人員体制・稼働時間を通常時よりも拡充した場合を想定

② ピーク時に向けた対応

- ピーク時の検査需要(約6.5万件/日)と現在の最大稼働時の検査(分析)量(約4.6万件/日)の差(約1.9万件/日)に対しては、抗原定性検査(抗原簡易キット)※2を活用。都内医療機関に抗原簡易キットの活用を促し、少なくとも約1.9万件/日の検査の実施を図る。【12月上旬まで】

※2 国は抗原簡易キットによる検査を大幅に拡充する方針（全国で1日平均20万件程度）。

また、R2.10.2より、被験者が自己採取できる鼻腔検体が使用可になっている。



【ピーク時約6.5万/日の内訳】

※ 検体採取体制について

① 都の現状

- 約2.1万～約6.3万件/日
(診療時間や体制の拡充により変動)

【都における検体採取の状況】

(単位：件/日)

医療機関	PCRセンター	保健所	合計
約1.8万～約5.5万	約700～約1,200	約1,800～約6,500	約2.1万～約6.3万

※1 最大値は、試薬や物品等を確保し、診療日時・体制を通常時よりも拡充した場合の検査数を想定

② ピーク時に向けた対応

- ピーク時の検査需要(約6.5万件/日)と現在の検体採取量の最大値(約6.3万件/日)の差(約0.2万件/日)については、都医師会と連携し、検査を実施する医療機関の拡充(診療・検査医療機関の指定)により確保する。検査を受ける必要のある方が、身近な地域で検査できる体制を整備

【12月上旬まで】



【ピーク時約6.5万/日の内訳】